

研究主題 「社会的なものの見方や考え方を深める個に応じた指導と評価の在り方」

東京都教職員研修センター 研修部 企画課

文京区立本郷小学校 教諭 宮林 伸之

研究のねらい

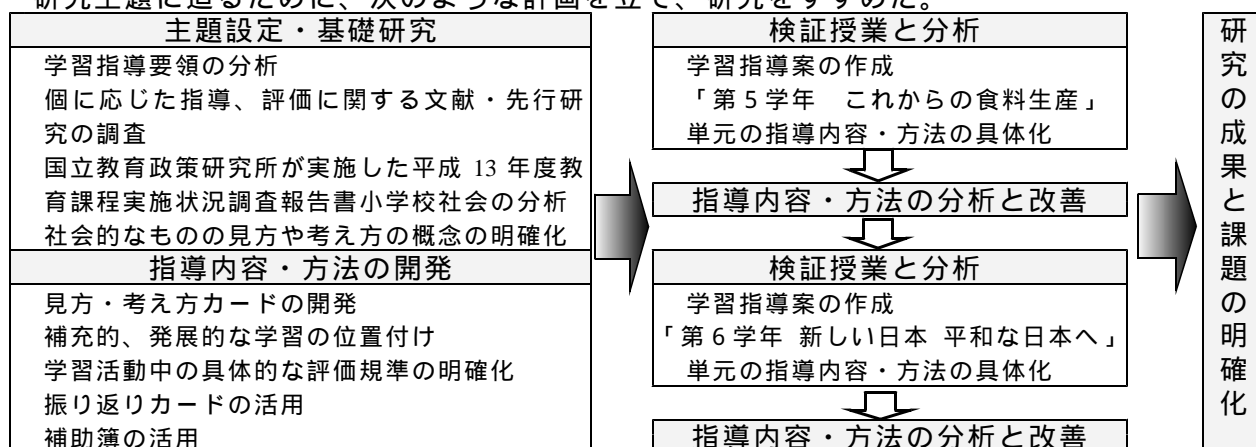
国際化、情報化の進展や技術の進歩など刻々と変化する社会生活の中で、児童・生徒が学習した内容が時の流れとともに変化してしまい、社会生活に役に立たなくなってしまうおそれがある。知識だけでなく、思考力、判断力、表現力や学ぶ意欲などを含めた確かな学力の定着など、刻々と変化する社会生活の中で主体的に生きる力が求められている。

このような現状の中で、小学校社会科の目標である公民的資質の基礎を養うためには、一つの社会的事象から「自分なりの見方や考え方」をもち、それをより確かな「社会的なものの見方や考え方」へと深めていくことが大切である。そのためには、教師が児童一人一人の学習状況を的確に把握したうえで、個に応じた指導を行っていく必要がある。

本研究では、児童一人一人が社会的なものの見方や考え方を深めるための個に応じた指導の方法を開発した。また、学習状況を的確に見取る評価の在り方を研究した。

研究の内容と方法

研究主題に迫るために、次のような計画を立て、研究をすすめた。



研究の経過と考察

1 基礎研究

- (1) 小・中学校学習指導要領解説を分析した結果、「公民的資質の基礎を養う」ことが共通の目標であることが明確になった。
- (2) 教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方」(平成 12 年 12 月)、国立教育政策研究所「学習評価の改善に関する調査研究」(平成 16 年 3 月)などから、個に応じた指導と評価の在り方について明確にした。
- (3) 平成 13 年度教育課程実施状況調査報告書において、社会科の学習を「分からない」と答えた割合が 5・6 年生で、3 分の 1 以上いた。分析結果から、教師は、児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じた指導をすることの必要性を明確にした。
- (4) 学習指導要領や先行研究の分析から社会的なものの見方や考え方を育成することが、社会科の目標である公民的資質の基礎を養うことにつながることを明確にした。

2 指導内容・方法の開発

- (1) 社会的なものの見方や考え方を深める個に応じた指導

見方・考え方カードの開発（指導1）

社会的なものの見方や考え方を深める手だてとして、一つの社会的事象から事実認識・意味把握する際の視点を明確にし、以下に示す項目をたてた。このカードは、学習中に児童が活用したり教師の支援に役立てたりできるようにした。【表1】

見方チェック（分かったこと）		考え方チェック（考えたこと）	
1	数を数えてみよう	6	疑問(なぜ、どうして)に思ったことや考えたことをあげてみよう
2	数字の変化(年代・増減・足したり引いたり)をみてみよう	7	原因や理由を予想してみよう
3	資料全体の傾向(集まっている・上がる下がる・多い少ない)をみてみよう	8	習ったことや経験したことを比べたりつなげたりして考えてみよう
		9	いろんな人の立場になって考えてみよう
4	場所(地域)のことをとらえてみよう	10	自分の生活にあてはめてみよう
		11	昔(過去)やこれから(未来)を考えてみよう
5	時間(歴史)のことをとらえてみよう	12	他の物事や国や地域の状況を考えてみよう

補充的、発展的な学習の位置付け（指導2）

学習内容や方法について、習熟の程度に違いが予想される時間に補充的、発展的な学習を設定した。そして、規準に到達していない児童は、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができ、習熟の程度の高い児童は、さらに社会的なものの見方や考え方が深まると考えた。

(2) 評価の工夫

学習活動中の具体的な評価規準の明確化（評価1）

教師が、児童の学習状況を授業中に的確に把握する手だてとして具体的な規準を設定した。また、規準に到達していない児童には、見方・考え方カードの番号の提示を考えた。【表2】

学習活動	教材(選定の意図)	支援	評価の観点「」方法 AB 具体の評価規準 C 手だて
二枚の写真資料をもとに戦争が終わった後の社会の様子について発表し合う。	二枚の写真(1943年10月学徒出陣・1964年10月東京オリンピック行進の写真から国民生活が豊かになり平和になっていることを考えさせるため)	二枚の写真は、同じ場所(国立競技場)での出来事であることを伝える。	「技能・表現」「思考・判断」ワークシートの内容 A...二枚の資料から事実を認識し、時代背景や人々の生活の変化など多面的な見方や考え方ができる。 B...二枚の資料を比較して違いを明らかにして、そこから自分の考えを書くことができる。 C...見方・考え方カードの2・5・6・8・9の視点を与え、例文を示す。

振り返りカードの活用（評価2）

1時間ごとに自己評価する時間を確保し、学習した内容を振り返ることができるカードを活用した。このことによって教師は、児童一人一人の学習状況や思考の流れを把握し、次時の指導に役立てることができる。児童においては事実認識や意味把握が整理され、自分の学習の流れを確認したり、振り返ったりすることができる。また、学習の終末には、教師の教え方について児童から評価を受ける場(先生へアドバイス)を設けた。

補助簿の活用（評価3）

観点別評価規準表で記した評価内容を指導に生かすために以下に示すような補助簿を作成した。児童の発言や行動等を記録に残すことは、個々の学習状況を分析し、教師が適切な指導助言をする上で有効であると考えた。【表3】

時	第1時	第2時
学習内容	二枚の写真から、戦後の日本がどのように変わっていったのか関心をもち、学習問題をつくることができる。	複線型の追究活動(課題の見通し・追究活動)歴史的な事象について問題意識をもち、学習の見通しをもって追究している。
評価	思 技 本時の姿と次時の具体的支援	思 技 本時の姿と次時の具体的支援
児童A	二枚のグラフが比較して読みとれていない。 見方・考え方カード9・10を指導する。	見通しをもつことができず、集中していなかった。 資料を用意する。 見方・考え方カード8を指導する。

本時の重点化した評価
...満足 ...要支援

評価規準に到達していない児童への次時の具体的な手だて

学習活動中に関心・意欲・態度の状況が顕著にみられた所見

3 検証授業の分析

(1) 検証授業の実施

一回目の検証授業は、第5学年「これからの食料生産」を実施した。この検証授業の課題として、「各時間の評価規準の重点化」「補助簿の記載内容の検討」「各学年の学習内容に応じた見方・考え方カードの作成」などの必要性が明らかになった。これらのことを改善し、以下のような二回目の検証授業を実施した。

学年及び単元名 第6学年 「新しい日本 平和な日本へ」

目標

第二次世界大戦後、我が国が民主国家として新たに出発し、国民生活が向上するとともに、国際社会において重要な役割を果たしてきたことを理解し、日本の今後の課題等を考える。

観点別評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	社会的な見方や考え方カードの主な視点
評価規準	日本国憲法の制定、東京オリンピックの開催などの歴史的な事象に関心をもって調べ、追究している。 我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情をもとうとする。	戦後の我が国の歴史的事象から学習問題を見いだして追究、解決している。 我が国は、民主的な国家として出発したことで、国民生活が向上するとともに、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを考え、適切に判断している。	年表や写真・文書などの各種の基礎的資料を効果的に活用して自分の学習にそって調べている。 調べた事実をもとに自分の考えを交えて、調べたことを分りやすく表現している。	戦後の我が国は、民主的な国家として出発し、国民生活が向上したことを理解している。 戦後の我が国は、国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解している。	
第一時	各時間の評価規準を学習内容にあわせて重点化していた。	これまでの学習をもとにして、戦後から東京オリンピック開催までの間にどのような変化があったのか考えるとともに、学習問題をつくることができる。	二枚の写真資料より、社会の変化を読み取ることができ	各時間に身に付けさせたい社会的なものの見方や考え方をあらかじめ設定し明確にした。	2 5 6 8 9

指導計画と児童の反応

つかむ	<p>二枚の写真資料をもとに戦争が終わった後の社会の様子について発表し合う。</p> <p>見方・考え方カードの活用（指導1）と学習活動中の具体的な評価規準の明確化（評価1）</p> <p><評価規準Bに到達していない児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の支援...二枚の写真から事実がつかめなかった児童に見方・考え方カードの2番を提示し21年間でオリンピックが開催できたことをおさえた。 児童の反応...「21年間で日本の様子が変わった。何があったのだろう。」と疑問をもち、学習問題につながる考えをもつことができた。 <p><評価規準Bに到達している児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の支援...「21年間」「終戦」という事実から疑問や日本が変化した原因・理由を習ったことや経験から考えることができていた。さらに多面的な考えがもてるように9番を提示した。 児童の反応...「学徒出陣の写真は、鉄砲をもって行進している。学生達は、暗い気持ちになっていると思う。東京オリンピックの写真は開催を喜び、人々が明るい気持ちになっていると思う。」と人々の立場になって考えることができるようになった。 			
第一時	<p>戦争が終わった事実を確認し、学習問題をつくる。</p> <p>戦争が終わったあとの日本はどのように変わっていったのか、調べてみよう。</p> <p>戦後日本は、どのように変わっていったのかを予想し、次時の課題をとらえる。</p> <p>複線型の追究活動...児童が興味・関心に応じて一つ選択し追究する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>追究活動A 人々の生活の変化を調べる</td> <td>追究活動B 国の政策や制度の変化を調べる</td> <td>追究活動C 世界の国々との関係を調べる</td> </tr> </table>	追究活動A 人々の生活の変化を調べる	追究活動B 国の政策や制度の変化を調べる	追究活動C 世界の国々との関係を調べる
追究活動A 人々の生活の変化を調べる	追究活動B 国の政策や制度の変化を調べる	追究活動C 世界の国々との関係を調べる		

<p>調べる 第二・三時</p>	<p>選択した課題には、どのような事実や事象があったのか年表をもとに明らかにする。事実や事象を選択し、調べる計画を立てる。 自分が選択した内容について調べる。</p> <p>補充的、発展的な学習の位置付け（指導2） 発展...選択した事象以外について調べ、より広い視野から歴史的な意味を考えることができるようにする。 補充...教師が用意した資料を読み取り、見方・考え方カードの8・9・10の視点を中心に自分の考えを述べるようにする。</p> <p>調べたことをまとめ、その意味について考える。</p> <p>見方・考え方カードの活用（指導1）と補助簿の活用（評価3） <評価規準Bに到達していない児童> ・児童の実態...複線型の追究活動で「人々の生活」の「東京オリンピックの開催」と「三種の神器」について調べる計画を立てていた。 ・教師の支援...「東京オリンピックの開催」「三種の神器」の資料の用意と見方・考え方カードの8番を提示した。 ・児童の反応...「この時代は、昔と比べていろいろなものができて、新しい日本にかわった」と自分なりの時代像をとらえることができた。</p>
<p>まとめる 第四・五時</p>	<p>調べた作品を見合い、歴史的な事実やこの時代に対する自分の考えを深める。 自分なりの時代像をつかむ。 日本が抱えている課題を明確にする。 自分ができることを考える。</p> <p>見方・考え方カードの活用（指導1）と学習活動中の具体的な評価規準の明確化（評価1） ・児童の実態...日本が抱える課題について教師が提示した「ごみ問題」「公害」「基地問題」以外に考えられない。 ・教師の支援...評価規準に到達していない児童に自分の考えをもたせるときには、課題を焦点化し、児童に身近な事柄を提示する必要があると考えた。実際に児童に身近なこと（ごみ問題）に焦点を絞り個別に指導した。また、見方・考え方カードの10番を提示した。 ・児童の反応...「ごみ問題では、リサイクルをしたり生ごみは肥料にしたりすればいい。」と学習したことや生活経験から自分の考えを述べていた。</p> <p>振り返りカードの活用（評価2）<先生へアドバイス>欄に記入した児童の意見 ・見方・考え方カードは、自分の考えや意見が書けなくて悩んでいるときに助かりました。 ・振り返りカードでその日に習ったことをもう一度確かめられて整理できた。また、全部終わった後に習ったことや考えたことが見直せた。 ・調べる時間がもう少しほしかった。</p>

(2) 検証授業の考察

見方・考え方カードに事実認識や意味把握をする際の視点を明確にしたことによって、教師は児童の学習状況に応じてカードの番号を提示するなど適切に支援することができた。

また、児童はカードの項目を手がかりに自分の考えをもつことができた。

補助簿で児童の実態をとらえたり、学習活動中の具体的な評価規準で即時的に学習状況を把握したりすることが、指導と評価の一体化に必要であることが明らかになった。

振り返りカードの中に、児童が教師の指導について意見を書く欄を設けた結果、教師は児童の意見から授業を客観的に振り返ることができ、授業改善につなげることができた。しかし、毎時間、振り返りの時間の設定が重要であるか検討する必要性が明らかになった。

今後の課題

見方・考え方カードを一年間を通して活用し、児童一人一人に社会的なものの見方や考え方が育成されたか継続して検証していく。また、カードの観点をさらに改善していく。

他教科等においても活用できるような補助簿を開発し、個に応じた指導に生かすとともに、客観的な評価に役立つようにする。